

南ヨーロッパの言語と文学を楽しもう！

「南ヨーロッパの言語」と聞いて、みなさんはどんな言語を思い浮かべるでしょうか？

イタリア語、フランス語、スペイン語など有名ですが、その他にもいくつもの地域語があり、現在でも話されているものもあります。そして、そのほとんどはラテン語を祖とし、あるものは発展し、あるものは衰退してゆきました。

本講座では、ルネサンス期にラテン語に代わって発展したイタリア語と、ほぼ同時代、フランス語の地位の上昇と共に衰退していったオック語の例を取り上げ、この二つの言語と他の言語との関係、その成立や発展における文学の役割をお話しするとともに、その文学世界を皆さんと一緒に味わいます。

日時 / 平成30年12月1日(土) 13:30~16:40

会場 / 合人社ウエンディひと・まちプラザ
(まちづくり市民交流プラザ)
北棟6階マルチメディアスタジオ
(広島市中区袋町6番36号)

定員 / 100名(定員を超える場合は抽選)

受講料 / 750円

受講対象 / 高校生・一般

● 中世ルネサンス文学とイタリア語の成立 (13:30~15:00) — ダンテ・ボッカッチョ・ペトラルカを中心に —

講師 / 上野 貴史(欧米文学語学・言語学講座 准教授)

ローマ帝政期に黄金期を迎えるラテン文学は、その後各地で俗語として発展していきます。特にイタリアでは、ルネサンス期にダンテの『俗語論』をきっかけにトスカーナ方言を中心としたイタリア語の成立と、ボッカッチョ、ペトラルカによる洗練された文学が確立していきます。イタリア語の確立と、イタリア文学の果たした役割を見ていきたいと思えます。

● もう一つのフランス文学 (15:10~16:40) 19世紀におけるオック語文学の復興 — フレデリック・ミストラル『ミレイユ』を中心に —

講師 / 宮川 朗子(欧米文学語学・言語学講座 教授)

現在でも南フランスで話されているオック語は、フランス語の成立に関わり、かつ中世文学の主な担い手であるトゥルバドゥールたちの言語でしたが、フランス語の発展と共に次第に衰退してしまいます。今回は、19世紀中葉に突如として興ったこの言語の文学の復興運動の背景を探り、その中心的な作家でノーベル文学賞を受賞したフレデリック・ミストラルの作品を楽しみます。

申込方法: はがき(一人1枚※往復はがきではありません。)に、①講座名、②郵便番号、③住所、④氏名(フリガナ)、⑤電話番号を記入し、下記の宛先へお申込みください。なお、電話・FAXでの申込受付は行っていません。定員を超える場合は抽選となります。

申込先: (公財)広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部管理課係
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

申込期間: 平成30年10月1日(月)~10月31日(水)

【問い合わせ先】

○広島大学大学院文学研究科
支援室(運営支援担当)
TEL 082-424-6604
FAX 082-424-0315

○(公財)広島市文化財団
ひと・まちネットワーク部管理課
TEL 082-541-5335
FAX 082-541-5611